

2021年11月14日 聖霊降臨後第二十五主日礼拝説教  
「いまは、いつなのか？」(マルコ13章1～8節)

○マルコ13章1～8節について

十字架につけられるため、救い主イエスがエルサレムへ入られた後、何度も神殿に行かれ、みことばを教えられた。最後に「イエスが神殿の境内を出て行かれるとき」(1節)、やがて神殿は崩れ去り、世の終わりの徴が現れると語られた。

「一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」(2節)

☞キリストのみことばどおり、それから40年も経たないうちに、エルサレムの神殿は壊され、姿形も無くなった。

※神殿崩壊に見られる〈終わりの徴〉は、今までも繰り返し現れているが、これから世の終わりに向かって、さらにその徴は明らかになり、キリストに従う者を苦しめる。

今日のみことば：マルコ13章5節

「イエスは話し始められた。『人に惑わされないように気をつけなさい。』」

【直訳】だれかが、あなたがたを間違った道へ迷わせないように。

弟子たちの尋ねた「(神殿が崩れ去る時)どんな徴があるのですか。」(4節)との問いに、救い主イエスは「人に惑わされるな」の言葉から〈終わりの徴〉について答えられた。

☞その徴である「偽預言者」(6,22節)、「戦争」(7節)、「地震」「飢饉」(8節)、「迫害」(9,11節)などが現れても、人を恐れ、人の考えに欺かれて、神の救いから離れぬように。

☆これからも、多くの人が、あなたの歩むべき道を迷わせ、戦争や自然災害も尽きることなく、疫病にも悩まされ、凶悪犯罪や恐ろしい出来事などが起こり続けながら、時は〈世の終わり〉〈キリストの再臨〉へと向かって進む。

「わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」(13節)

※さらに厳しい世が来ようとも、わたしたちは、神の救いに依り頼み、共に支え合いながら、天の御国を待ち望もう。